

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 1 月 12 日

学 長 殿

所属部局・職名 大学院共生システム理工学研究科・博士前期課程

申 請 者 名 砂川 昌允

助成事業の区分 (該当するものに 印)	研究協力に関する事業 (学会参加)
事業名	国際学会 2017 Asian Conference of Management Science & Applications の参加
事業実施期間	平成 29 年 12 月 24 日 ~ 平成 29 年 12 月 29 日
成果の概要	<p>2017 Asian Conference of Management Science &amp; Applications (ACMSA2017)は 2017 年 12 月 25 日 ~ 12 月 28 日中国・福建省福州市にて開催された。この大会に参加し、”Modeling Visual Palatability of Box-Lunches Based on Outward Appearance Impressions” を題目とする研究発表を行った。</p> <p>「おいしさ」は、味覚のみでなく、他の感覚(嗅覚, 視覚, 触覚, 聴覚)を含めた様々な感覚が複合的に評価されたものである。その中で視覚が果たす役割は特に大きく、「最初の味覚はたいてい視覚から生じる」と言われている。だが、この視覚の与える「おいしさ」に関わる科学的な研究は、ほとんど行われていないのが現状である。</p> <p>本研究では、外観の異なるお弁当を 7 種類用意し、それらの写真をとった。これらの写真を被験者に示したうえ、様々な視点からお弁当の外観印象を記入して、またお弁当の美味しさに関する感覚評価を答えてもらった。これらの外観印象と評価に基づき、因子分析と共分散構造分析手法を用いて解析した結果、お弁当を見たときに想起される様々な印象から「おいしい」と感じるまでのプロセスにあたる嗜好モデルを構築した。このモデルによりお弁当の外観印象からおいしさを感じる社会心理学的なプロセスが明らかになった。さらに、洋風弁当と和風弁当に関して、おいしさを効果的に感じさせるために強化すべき外観がそれぞれ異なることもわかった。</p> <p>この研究発表は Student Best Paper Award (学生優秀論文賞)を受賞した。</p>